

保育系短大生が抱く子どもの健康及び保健対応の不安に関する研究

A Study on the Anxiety of Children's Health and Health Care in the Junior College Child Care Students

川島 隆・松澤 俊行

要 約

保育系短大生が子どもの健康・保健対応に関して抱いている不安の有無やその内容を明らかにし、園における子どもの援助の充実や子ども自身が健康な生活を創っていくことに寄与することを目的とし、質問紙調査を行った。その結果、(1)保育系短大生のほとんどが不安を抱いており、保育実習を経験している2年次学生の方が、1年次保育学生よりも多くの不安を抱えている。(2)不安の内容について、「けがなどの応急対応」は、いずれの学年でも回答が多く見られ、1年次保育学生では、「子どもへの接し方」についての不安が、2年次保育学生では、「保護者への支援」が特徴的である。(3)2年次保育学生が抱えている「けがなどの応急対応」の不安は、「応急処置の具体的な理解」をはじめ、より具体的な場面を想定したものであり、1年次保育学生の不安とは質的にも異なる。(4)保育実習で経験した園児の体調不良と子どもの健康・保健対応に関する不安には、弱い正の相関が見られ、保育実習において体調不良に関わる経験を多くすることは、健康・保健対応に関する不安を大きくすることにつながる。以上、4点が明らかになった。

キーワード：保育系短大生 保育者 子どもの健康 保健対応 不安

1 はじめに

保育者にとって、様々な感染症予防やそれらの対応をはじめとする子どもの保健的な対応は、より幅広く、かつ重要度を増してきている(西村・山川, 2021)。また、保育所保育指針では、保育所が乳幼児期の子どもにとって安心して過ごせる生活の場となるためには、健康や安全が保障され、快適な環境であること、保育士等には、子どもと生活を共にしながら、保育の環境を整え、一人一人の心身の状態などに応じて適切に対応することが示されている(厚生労働省, 2018)。

一方で、沼野(2011)は、保育現場において保育者が、保健対応に非常に苦慮している現状を報告している。また、前田(2017)は、保

育実習において40%を超える保育系短大生が子どもの保健に関して困った経験をしているとの報告をしている。さらに、杉野ら(2020)は、保育士養成課程に在籍している96%の4年次大学生が子どもの健康・保健に関する不安を抱いていると述べている。このように、保育学生にとっても、保育現場の保育者にとっても、子どもの健康や保健対応についての不安は、大きな問題と言える。

そこで、本研究では、保育者を志す短大生のうち、保育実習を前にした1年次保育学生、入職前の2年次保育学生それぞれの、子どもの健康・保健対応に関して抱いている不安の有無やその内容を明らかにし、「子どもの健康」に係る科目のカリキュラム編成並びに具

体的な指導改善につなげるための一資料を得ることを目的とするものである。また、そのことを通して、園における子どもの援助の充実や子ども自身が健康な生活を創っていくことに寄与するものとしていきたいと考える。

2 方法

(1) 対象者

2021 年度 1 年次在籍の保育者養成課程の学生(以下、保育学生)121 名、同年度 2 年次在籍の保育学生 114 名に Google classroom 及び口頭にて調査依頼及び趣旨説明を行った。保育学生は、1 年次保育学生 94 名回答(回収率 77.7%)、2 年次保育学生は 86 名回答(回収率 75.4%)であった。

(2) 手続き

1 年次保育学生に対しては、教育実習 I 及び保育実習 I (保育所)を実施する前に、以下の内容について、Google form を利用して、電子媒体によって回答・提出することを求めた。

①実習に際して健康・保健に関する対応への不安の有無

②不安がある場合には、どのような不安があるのかについて、15 項目の選択式(複数回答可)(表 1 参照)杉野(2020)を参照・改変

③②についての具体的内容については自由記述
また、2 年次保育学生に対しては、概ね教育実習 II 及び保育実習 II が終了した後、以下の内容で、1 年次保育学生と同様の方法で調査を実施した。

①保育実習 I・II において担当した園児の年齢

②保育実習 I・II で経験した内容
25 項目より選択式(複数回答可)(表 2 参照)小屋(2010)を参照・改変

③保育実習 I・II で経験した体調不良の内容
18 項目より選択式(複数回答可)
(表 3 参照)小川ら(2018)を参照・改変

④就職先 幼稚園、保育園(所)、こども園、3 園のいずれか(配属未定)、その他社会福祉

施設、企業等、進学・編入、未定の 8 項目より選択式

⑤(園に就職する学生のみ対象)

就職に際しての健康・保健に関する対応への不安の有無

⑥⑤の不安の内容 15 項目の選択式(複数回答可)(表 1 参照)

⑦⑥の具体的内容についての自由記述

表 1 健康・保健に関する対応への不安

- | | |
|---|-------------------|
| ① | けがなどの応急対応 |
| ② | 疾病への対応 |
| ③ | 感染症予防 |
| ④ | 事故防止 |
| ⑤ | 子どもの心身のケア |
| ⑥ | 衛生習慣 |
| ⑦ | 睡眠 |
| ⑧ | 排泄の世話 |
| ⑨ | 発達に応じた対応 |
| ⑩ | 保健計画 |
| ⑪ | 身体計測 |
| ⑫ | 子どもの健康に関する保護者への支援 |
| ⑬ | 子どもへの接し方 |
| ⑭ | 虐待に関すること |
| ⑮ | その他 |

表 2 保育実習で経験した内容

- | | | | | | |
|---|-------|---|---------|---|-------|
| ① | 室内遊び | ② | 園庭遊び | ③ | 手遊び |
| ④ | 読み聞かせ | ⑤ | 紙芝居 | ⑥ | 園外散歩 |
| ⑦ | おんぶ | ⑧ | 抱っこ | ⑨ | 衣服の着脱 |
| ⑩ | おむつ交換 | ⑪ | 食事補助 | ⑫ | 授乳 |
| ⑬ | 調乳 | ⑭ | 歯みがき | ⑮ | 排泄補助 |
| ⑯ | 沐浴 | ⑰ | 検温 | ⑱ | 与薬 |
| ⑲ | 身体計測 | ⑳ | 体清拭 | ㉑ | 顔清拭 |
| ㉒ | 連絡帳 | ㉓ | 保護者との会話 | ㉔ | 寝かしつけ |
| ㉕ | その他 | | | | |

表 3 保育実習で経験した体調不良の内容

- | | | | |
|---|----------|---|----------|
| ① | けが(擦り傷等) | ⑪ | 熱中症 |
| ② | 発熱 | ⑫ | けいれん |
| ③ | 咳 | ⑬ | 発疹 |
| ④ | 鼻血 | ⑭ | 骨折・脱臼・捻挫 |
| ⑤ | 鼻水 | ⑮ | やけど |
| ⑥ | 嘔吐 | ⑯ | 打撲 |
| ⑦ | 下痢 | ⑰ | 誤飲 |
| ⑧ | 腹痛 | ⑱ | その他 |
| ⑨ | 頭痛 | | |
| ⑩ | 悪心 | | |

以上の分析について、選択式は、単純集計、自由記述については、杉野ら(2020)の分析にならない、類似した内容のカテゴリー化を行った。また、2年次保育学生については、②と⑥、③と⑥の項目についての相関分析を行った。

(3) 倫理的配慮

論文公表における倫理的配慮に関しては、浜松学院大学短期大学部の倫理審査を受け、承認された。

3 結果

(1) 1年次保育学生が抱く不安

1年次保育学生の保育実習前、「健康・保健対応に関する不安の有無」についての調査結果は、図1に示すとおりであった。78名84%の学生が不安を感じている、15名16%の学生が不安は感じていないと回答していた。また、不安の内容については、図2に示すとおりであった。

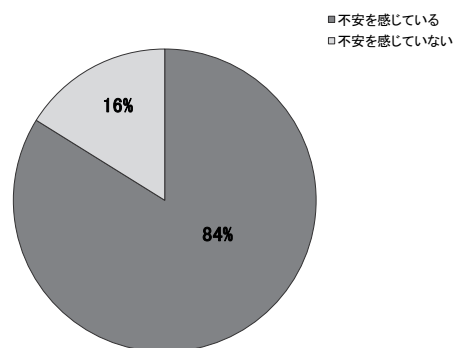


図1 子どもの健康・保健対応に関する不安の有無【1年次保育学生】

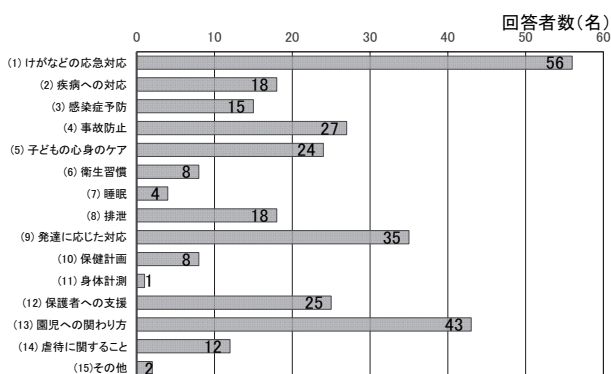


図2 子どもの健康・保健対応に関する不安の内容【1年次保育学生】

15項目のうち最も回答が多かったのは、「(1)けがなどの応急対応」で、56名(60.2%)の学生が不安であると回答している。以下、「(13)子どもへの接し方」43名(46.2%)、「(9)発達に応じた対応」35名(37.6%)、「(4)事故防止」27名(29.0%)、「(12)保護者への支援」25名(26.9%)の順であった。

次に、これらの内容に関する自由記述については、次頁表4に示すとおり、回答が多い上位3つの項目について、カテゴリーとともにまとめた。「(1)けがなどの応急対応」については、41名が記述し、8つのカテゴリーにまとめられた。「正しい対応の理解」、「冷静な対応」、「迅速な対応」、「未経験」、「子ども同士のけが」、「様々な対応」、「一人で対応」、「その他」の8つであった。また、「(13)子どもへの接し方」については、「適切な接し方の理解」、「年齢にあった関わり」、「子どもを傷つけること」、「その他」の4つのカテゴリーにまとめられた。さらに、「(9)発達に応じた対応」については、「発達に応じた対応の理解」、「適切な対応」、「未経験」、「個人差」、「その他」の5つのカテゴリーにまとめられた。

(2) 2年次保育学生が抱く不安

2年次保育学生を対象として、入職前の1月に「健康・保健対応に関する不安」について調査を行った。調査時点での入職先は、図3に示す通りであった。こども園29名、幼稚園23名、保育園(所)17名、いずれか配属未定12名、その他社会福祉施設1名、進学・編入1名、未定3名であった。

また、健康・保健対応に関して不安を感じているか否か調査した結果は、図4に示すとおりであった。81名94%の学生が不安を感じ、5名6%の学生が不安は感じていないとの回答であった。

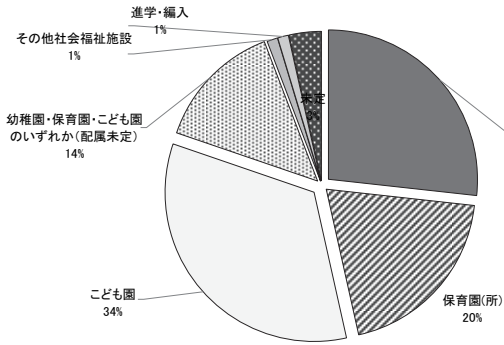


図3 2年次保育学生の就職先

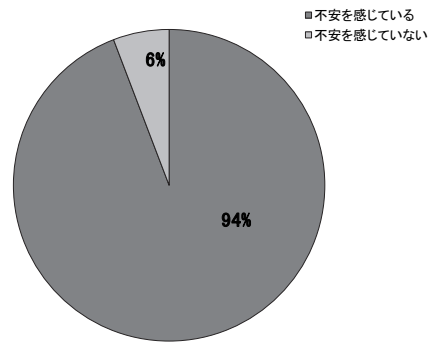


図4 子どもの健康・保健対応に関する不安の有無【2年次保育学生】

表4 項目別不安内容(自由記述)【1年次学生】

項目	カテゴリ	記述内容	項目	カテゴリ	記述内容	項目	カテゴリ	記述内容
(1) けがなどの応急対応	冷静な対応	ケガをした時に対応しつつ他の子のことも見るとなると焦ってしまいがち。	適切な接し方の理解	どのように接すればいいのかわからない	(9) 発達に応じた対応	発達に応じての対応をまだあまり全て理解していないから不安	発達に合った対応の理解	まだ詳しく発達段階を把握できていない
		怪我をした子がいたら自分が慌ててしまいがち		どんな接し方が正解なのかわからないので、怖いです。				年齢によっての差がまだわからないから
		慌てて焦ってしまうと思う。時と場合による判断が自分で出来るかわからないため。		適切な子どもへの接し方について				発達の特徴を理解し対応がすぐできるか不安
		ケガをした時に焦らず対応出来るか。		子どもへの接し方が適切にできるか。嫌われないか				発達に応じて対応を要さないといけないと思うがどう変えたらいいかわからない。
		怪我をした時に戸惑ってしまいがち		年齢や発達に応じた接し方をするが、接し方があるのか不安になる。				どう対応したら発達にあっていいのか分からない。
		もし接している中で怪我をした場合、慌ててしまうと思う。		子どもとどのように接したら子どもは楽しく話しかけてくれるようになるかわからないから				それぞれの年齢によってどんな発達の対応をすればいいのか
	子どもがケガをしたときや、具合が悪い時に焦らず適切な対応ができるか心配	今までボランティアの経験はあるけれどと疑問といたことがなく、子供たちとの接し方に不安を持っている	発達に合った対応の仕方がわからないから					
	怪我をしたときに焦ってしまって対応を早くすることができない気がして不安	“保育者”としての関わり方ができるか不安。	計画に応じて子どもたちの発達に合わせた接し方ができるか。	適切な対応	その子の年齢、発達に合った対応ができるか、成長を妨げないか心配			
	子どもが目の前で怪我をしたらパニックになって冷静に対応出来ないと思うから。	接し方をうまくできるか不安だから	子どもの年齢や発達度合いに応じた援助ができるか心配		自分がちゃんと、発達に応じた対応ができるか不安。			
	子どもが怪我をした時に適切な処置を出来るかどうか	年齢にあった関わり	年齢にあった関わり方やコミュニケーションがうまく取れるか		未経験	実習自体初めてのため、子どもがどのようなことができ、どこまでの援助が必要なのか明確に分らないこと。		
	適切な対応ができるか不安	子どもを傷つけること	子どもに優しく接するのは当然だが接する時に無意識的に子どもを傷つけないか			具体的などのように対応すればいいのかが実際に体験できていないのでそれが分らない不安があります。		
	応急手当の方法が正しいやり方がわからない	子どもへの接し方	一人ひとり興味関心や好きな物、嫌いなものが違うのでその子に合った援助ができるかどうか		その他	0~1,3歳児と年齢が低い子どもと関わるため、どのように関わればいいのかあまり想像がつかない。(実習最初の方)	個人差	個人差があるため、一人ひとりにあった対応ができるかどうか
正しい怪我の対応や子どもが怪我した時にまわりに先生がいなかったらと思うととても不安	自分一人に対して沢山の子どもと関わること		年齢に応じて発達の過程は様々なのでしっかりと対応することが出来るか不安だから					
けがとか事故を起こした時の正しい対応がわからないから心配	子供の要望に対して応えられるか、保護者への指導の、伝え方について		年齢によって違う対応ができる自信が無い。					
けがの正しい対処法がわからないから。	子供との距離のちぎれ方		何歳にはこのような言葉を使っていいなど					
子供が怪我をした時にどのように対応をすればいいのかわからない	どこまで関わっていいのかわからない		一人で出来ること、援助が必要になることの区別					
怪我をしたときの対応がイマイチ分からない。	怪我した時の子どもへの対応を知りたい。		どの年齢の子どもに対して、トイレや食事など生活面に関して対応を取るべきか、自分がしっかりと対応できるか少し不安を感じる。					
群衆の中の前にどのような対応をするのが正しいのかわからない。子どもが失火をした時には、どういった行動をすればいいのかわからない	急に起こったことに対応しきれなくなってしまうそう。	年齢が低くても、対応が必要になること	その他	実際の授業で学んだことが生かせるか心配。				
怪我によってどんな対応をすればいいのかわからない	その時に適切な対応の仕方が初めてであるから不安	子供と接する時、何をやって、どのように対応していくのかわからなくなりそう。		年齢の発達によって遊びや接し方声掛けの程度が違うこと。手遊びや歌				
授業で習ったけど、復習して欲しいです	子供と仲良くなれるか不安です。	初めでなので初日にどう接していいかわからなくなりそう。		年齢に合わせての対応やわかりやすく教えることができると思えないから。				
実際に怪我をしてしまった場合の対処法が確信がなく不安です	学んだことを活かせるかわからない	積極的に話してくれる子には応えることができるけど、そうでない子にどう話しかけたらいいか		具体的に言うのは難しいが不安				
子どもが怪我をしたとき、自分は実習生としてどのような対応をどの程度までしたいのかわからないから	子供と接する時、何をやって、どのように対応していくのかわからなくなりそう	良い対応ができる自信が無い		子供の対応だけで精一杯になると思うから				
怪我によってどんな対応をすればいいのかわからない	学んだことを活かせるかわからない							
迅速な対応	子供が怪我した時、すぐに対応できるのか、子どもの心のケアができるようにしたい							
未経験	振り返り機能ではなく、子どもが打撲など重い怪我をした時にすぐに応急処置できる自信がない。							
子ども同士	子どもが怪我をした時、すぐに適切な対応ができるか、							
子ども同士のけが	何回かの実習でまだ体験したことのないで何週間ともなると一回は起こりうると思ったから。							
様々な対応	怪我の対応をしたことが無い							
一人で対応	子供同士で怪我をしてしまった時の対応							
その他	子ども同士で怪我をしてしまった時に戸惑いそう							
	けがには様々なけががあり対応の仕方も変わってくるので臨機応変に対応できるようにしたい							
	怪我によって違うから							
	自分しか周りにいない時に急に怪我や疾病が起こった場合、どうしたらいいのか。							
	自分一人で解決しても大丈夫なのか凄く小さな怪我でも先生に伝えるべきなのか。							
	怪我をしたときに処置をする順番や不安にさせないような表情、対応ができるかどうか。							
急な病気や怪我の対応								
子どもが怪我をした時に焦らず先生に速やかに報告できるか不安だし、事故が起らないような対策はどのようなものがあるのか								
怪我の対応をしたことがない、自分が怪我をさせてしまうのでは？という不安がある。								
目の前でコケて血が出たなど								
怪我の時の対応								
自分が対応できるか怖いから。								
記述数	41	記述数	28	記述数	28			
回答割合(人数)	60.2% (56名)	回答割合(人数)	46.2% (43名)	回答割合(人数)	37.6% (35名)			

(3) 2 年次保育学生の保育実習の経験

2 年次保育学生は、保育実習を経験してきている。その経験が、入職に際しての不安に影響していることが考えられるため、保育実習において、担当した園児の年齢、実習で経験した内容及び実習で対応した体調不良の内容についても調査を行った。その結果は、図 5～7 のとおりであった。

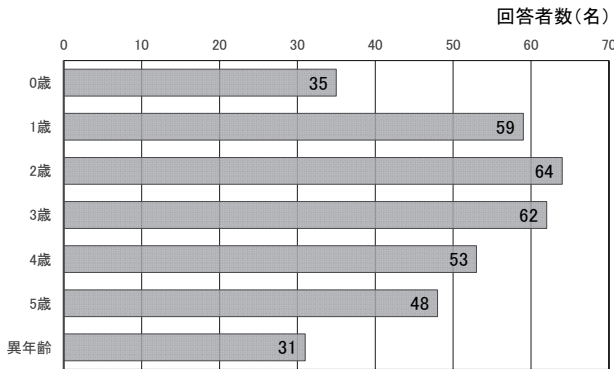


図 5 保育実習 I・II (保育所) で担当した園児の年齢

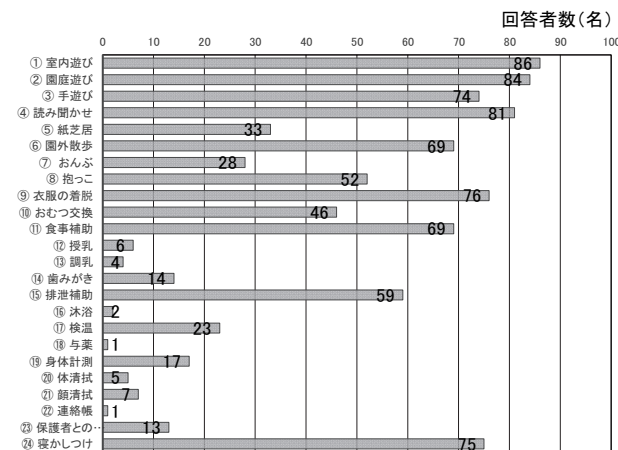


図 6 保育実習 I・II (保育所) で経験した内容

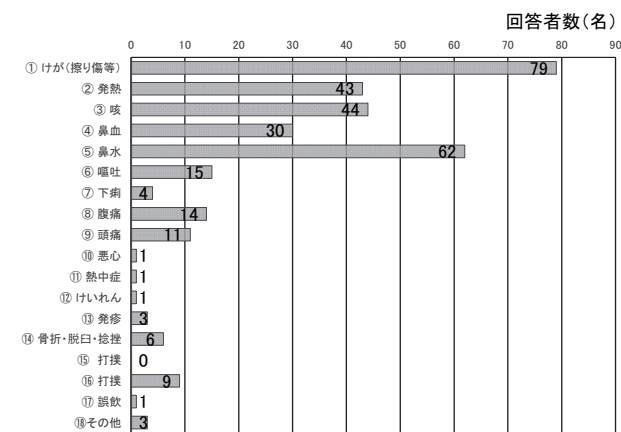


図 7 保育実習 I・II (保育所) で経験した園児の体調不良

保育実習では、比較的幅広い年齢の子どもを担当している学生が多く、各園の実習への配慮が見られた。また、園によって、経験する内容には大きな差が見られた。保育実習で経験している内容としては、「室内遊び」(86 名)が最も多く、全員が経験している。次いで、「園庭遊び」(84 名)、「読み聞かせ」(81 名)、「寝かしつけ」(75 名)等が挙げられた。

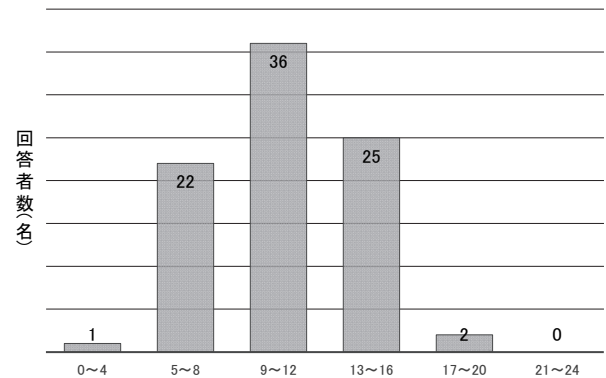


図 8 保育実習 I・II (保育所) で経験した内容量

保育実習の経験内容の個別量を集計すると、図 8 に示すとおりであった。24 の内容のうち、18 の内容を経験している学生もいれば、4 つの内容のみを経験している学生も見られた。同じ期間でありながら、経験内容には大きな差がある。

次いで、学生が保育実習で経験した園児の体調不良については、「けが(擦り傷等)」(79 名)が最も多く、「鼻水」(62 名)、「咳」(44 名)、「発熱」(43 名)が多く経験している内容であった。

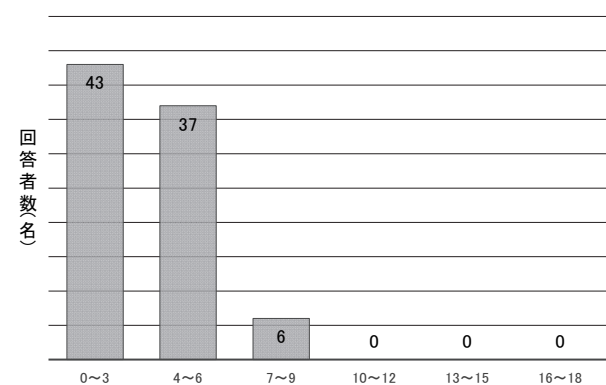


図 9 保育実習で経験した園児の体調不良の内容量

平均でみると、学生は、実習においておよそ4種類程度の園児の体調不良への対応を経験している(図9参照)。学生によっては、先ほど挙げた4つ以外に「鼻血」、「下痢」、「腹痛」、「頭痛」、「発疹」といった症状の対応を経験している。一方で、全く体調不良への対応を経験しなかったという学生も見られ、経験内容に明らかな差が見られた。

こうした実習を経験して入職する学生は、どんな不安を抱いているかを示すのが図10である。

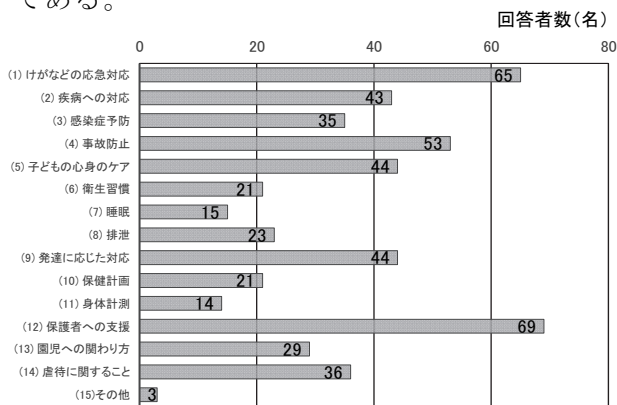


図10 子どもの健康・保健対応に関する不安の内容【2年次保育学生】

15項目のうち最も回答が多かったのは、「(12)保護者への支援」で、69名(80.2%)の学生が不安であると回答している。以下、「(1)けがなどの応急対応」65名(75.6%)、「(4)事故防止」53名(61.6%)、「(5)子どもの心身のケア」44名(51.2%)、「(9)発達に応じた対応」44名(51.2%)の順であった。この2年次保育学生の結果を、先に示した1年次保育学生の結果と比較したのが、図11である。「(13)子どもへの接し方」を除く14項目で、2年次保育学生が高い回答率であった。全体として、不安を抱いている学生が多いのは、2年次保育学生である。また、「(1)けがなどの応急対応」や「(9)発達に応じた対応」は、いずれの学年も回答率が高いが、「(12)保護者への支援」と「(4)事故防止」の項目で高い回答率を示しているのが2年次保育学生である。

これらの内容に関する自由記述については、回答が多い上位3つの項目については、カテゴリとともに、次頁表5に示した。

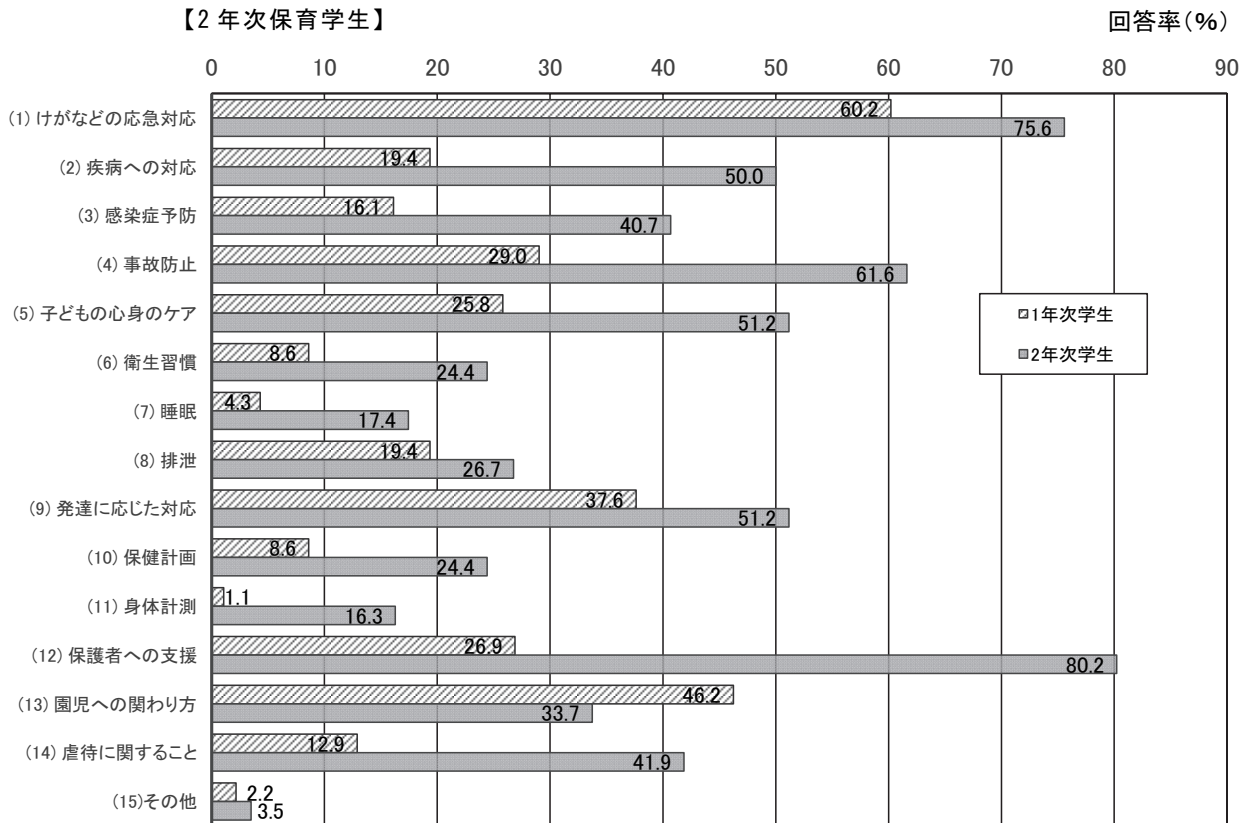


図11 子どもの健康・保健対応に関する不安の内容についての学年比較

表 5 項目別不安内容(自由記述)【2 年次学生】

項目	カテゴリ	記述内容	項目	カテゴリ	記述内容	項目	カテゴリ	記述内容		
(12) 保護者への指導	コミュニケーション・話し方(言葉遣い、敬語)・受け答え	保護者とのコミュニケーションを上手に取れるか不安。	応急処置の具体的な理解	(4) 事故防止	対応の理解	どんな危険が潜んでいるか分からないから	保護者として何をするかわからないから。	どれも良い理由づけをしても、子どもの怪我はつきものです。その怪我をどれだけの頻度で抑えることができるかが重要だと思います。この 判断をききもと できるか不安です。		
		保護者と上手にコミュニケーションが取れるか分からないから。							怪我をした際の 対応方法の正解 が分からないから。	事故防止として 何をすれば良い のか分からないから。
		保護者としてしっかりコミュニケーションをとることが出来るか、話して 失礼のないような話し方 ができるか							子どもが突然怪我をした時、発作などの病気が起きた時に どのように対応 したら良いのか、AEDの使い方などが分からない。	どれだけの 頻度 で対応できるか不安
		ちゃんとした 敬語 を使っているか							切り傷や打撲などの 処置	事故を防止できるか不安、子どもの姿を把握し、その 場にあった対応や先を考えた行動 ができるようにしたい。
		保護者への対応、しっかりと 言葉使い や1日の子供の状態を 言葉で分かるように伝えられる か不安。							子どもが怪我をした時にどういった応急処置をしたらいいか 具体的に 分からないから	予想外のところでは けが があったとき対応できるか心配だから。
		実習では、あまり保護者と関わる機会がありませんでした。なので、どんな 場 があるのか、 丁寧な話し方 ができるか不安です							子どもが 応急手当て の方法	しっかりと子どものことを見ていても全員をずらして見られる訳ではないため、事故を 確実に 防止できると言い切れないから。
		園児への関わりはもちろんだけ保護者の方への対応もとても心配。 言葉づかいや態度 など丁寧な対応ができるか不安。							事故が起こった時の 具体的な応急処置 など。	事故は 未然に防げるものばかりではない から。友達同士の取っ組み合いや、道具での転落事故など
		失礼のないように対応ができるか不安です。 敬語 がきちんと使えるかどうかだったり、 クレーン が来た時の対応などが不安だから							子どもが怪我をしたときに 適切な対応 ができるか。	自分がちよっと目を離した時に子どもが怪我を起こそう
		保護者 とどのように会話 をして、どう支援をするのか不安							実習に実習へ行った時 子供たちは 怪我をしていて、その怪我も様々だったので 対応がちゃんと出来る か不安です。	最後に事故防止については、どれだけ 気を付けて いても起きてしまうことあるから 常にまわりを良く見られる のが慣れるまで心配。
		保護者の力になれる 受け答え ができるか不安。							子どもは怪我をよくするもの、その 場にあった対応 をすぐにできるか不安です。	保護者の方の代わりに 大事な子ども の命を預かっているから 責任 を感じる。
	保護者に どう聞かせ が良いのか分からないから不安。	しっかりと子どもたちの様子を見ていても怪我をしてしまう が出てしまう かもしれないし、その時に自分が しっかりと対応 できるか不安	的確な判断							
	保護者への 声掛けや対応 が不安。	けがなどの 応急対応 ができるか不安です。	冷静な対応							
	保護者からの質問で 的確に自分が答えられない ようなものが来た時に信用が下がってしまうのではないかと不安になる	子どもが怪我をした時 正しい手順 でできるか分からない。	その他							
	保護者や園児に寄り添うと言っても どうやって寄り添う たら良いのか分からない。	子どもが けが をしてしまった時、 的確に 対応ができるか不安。								
	どのような 保護者 がいるのか分からないし、どんな 対応 をすることで保護者にとって 寄り添い 方になるのか不安。	授業で言ったけど 的確に 対応できるか不安								
	保護者には自分より 年上 がほとんどであるため、 言葉遣い やどういった 保護者 を支援をしたらいいか不安。	怪我が目の前で起きた時に 即時の対応 が出来るか不安。								
	保護者へ どんな支援 を行えばいいのかわからないから不安です。	応急対応で子どもの 怪我の度合い が変わってくるから自分が 的確に 対応できるか不安。								
	保護者は 子育て の不安を抱える人も少なくありません。そのような保護者に対して、どのような 言葉 がけが必要なのか 場面 によっては違うため、不安です	子どもが けが をした時の保護者への 伝え方 や病院へ行くべきかの 判断 など								
	保護者の相談や保護者による 声掛けや寄り添い 方をしていくことが大切なかまた、 1人1人に合わせた支援 を考えると不安です。	病院へ行くかどうかの 判断 や急に対応できるか								
	保護者が こっぴどい理由 で子育てに不安を抱えていると 言われ 、その 不安 に対して どのように言葉 をすべきなのか	どの程度の 怪我 なのか、救急車を呼ぶべきか等								
	それぞれの 家庭 への対応をし、解決したり 話を聞いて いけるのか不安です。	即時に判断 するのが大変そう								
	保護者への アドバイス や 指導 をするのが大変そう	授業で学んだけど 実際に 起きた時に 冷静に 対応できるか不安。								
	今まで、保護者と関わる機会がなかったから どのように対応 していいのかわからなくて不安。	初めてのことでその時に合わせて 冷静に 対応することができるかや園児の保護者に頼れるかも不安								
	大切な子どもの命を預かる仕事ではあるのですが、保護者に対する 対応の仕方 が分からなくて不安に思っている。	けがや事故で 冷静に 対応できるか不安。								
	実際に保護者と 関わったこと がないので、とても不安を感じます。	実際に子どもが怪我をした時に 冷静に 判断できないそう怖い								
	保護者対応は、 保護者と関わる ことがなかったから不安。	子どもを 抱えて いても必ず事故は起こりうるものであるため、事故をした直後に 子供に なつて 声をかけて いけるか、 寝静 になりそう								
	保護者対応は、 どのように関われば いいのかわからないです	けがや 疾病 への 対応の仕方 、 言葉 の 掛け 方等								
	どのように保護者と接していくのか謎	ずり傷なら何とか手当はできるが頭から血が出るなど 実際に 対応したことがないので不安です。								
	保護者は子どもと関わるだけではなく、保護者との関わりも大切である為、保護者の方からも 信頼 されるような保育者になりたい。	けがなどへの 応急対応 は、今まで学習はしたけど 実践 することは出来ないから不安。								
	保護者支援は 人間関係 や 信頼関係 に関わってくるため、関わり方が難しく思う	保育者不在の けが								
	保護者一人一人に対して、どのように関われば良いのか、 安心して預けてもらえる のか不安。	見ていないところで起きた怪我など								
	保護者対応がとにかく不安 保護者に 聞いてもらえるか	見ていないところで起きた怪我								
	保護者に 関わる 時は、保育者が正しいと思わずに 保護者と相談しながら 支え合う必要があると思う。	けがの 対応 に関わりそう 目にこみが入った時にどう対応していいかわからず、先生に頼ったことが 実習 であつたから。								
	保護者との関わり方がわからないため、保護者と話をしても 不当に これを 伝えて いいのかわからない、 伝え ない方がいいのかなど 沢山 悩むと思う	子どもの 怪我 や 感染症 等しっかりと対応し上げたいように思うこと。								
	自分自身は子供を育てる経験がないので どこまで 言っているのかわからない	様々な 怪我 が起こり、それぞれの 怪我の対応 が異なると思うのでそれが難しいと感じた。								
	送迎時の 保護者 との関わり方 子供を 保護させてしまったときの説明の仕方	自分が全てを見れるとは思っていないけれども、 見れていない 時にどんなことがあるかわからず、さらにどのくらいのことか 起きる のか分からないから								
	けがが けが が起きたときの 保護者 への伝え方など	ケガの 応急処置 では、いざその場になると 対応 出来るか不安です								
	ほとんどの保護者の方が 自分より年上 だと思うので、子育ての支援について アドバイス する立場になるため、うまく関わっていきけるか不安。	事故防止は、自分や他の保育者が 気を付けて いても起きてしまう 時 があるから								
	保護者の 役割 が 子育て に 関しては経験 年数が多く、そういった保護者に対しての 支援 を行うことが不安	いつ 怪我 して事故が起きるか分からない状態が続いているから。								
	保護者対応のときに伝えるべきことを正確に伝えるようにすることや子どものことをよく見て伝えるなど 日々 勉強、 習熟 することが難しく思う	(実習で)実際に 顔を きつた姿をみて、自分はずく 対応 できない 思った から。								
すべて 子どもの 状態 をしっかりと把握し、保護者に伝えることができるか不安なため	怪急に 驚くことがどんな事なのか見極めに行けるか不安だから									
実際の前にしたら しっかりと 対応できるか不安だから。										
保護者や園児への関わり方が色々あるから										
モンペ が多そう怖い、理不届なことを言われたら言い返してしまいたい。										
保護者とうまくやっていけるか。										
色々な人がいるから その人 に 合った 対応ができるか不安。										
記述数	46	記述数	40	記述数	14					
回答割合(人数)	80.2% (69名)	回答割合(人数)	75.6% (65名)	回答割合(人数)	61.6% (53名)					

「(12)保護者への支援」については、46名が記述し、8つのカテゴリーにまとめられた。「コミュニケーション・話し方(言葉遣い、敬語)・受け答え」、「寄り添い・支援の具体」、「未経験」、「信頼関係」、「伝える内容」、「子どものけが」、「保護者の年齢・経験」、「その他」の8つであった。また、「(1)けがなどの応急対応」については、40名が記述し、9つのカテゴリーにまとめられた。その内容は、「応急処置の具体的理解」、「適切な対応」、「迅速な対応」、「的確な判断」、「冷静な対応」、「子どもへの声掛け」、「未経験」、「保育者不在のけが」、「その他」の9つであった。

さらに、「(4)事故防止」については、14名の記述が見られ、6つのカテゴリーにまとめられた。53名(61.6%)が、不安な項目として挙げているにもかかわらず、記述内容は、他項目に比べて多くはなかった。6つの内容は、「対応の理解」、「適切な対応」、「責任」、「的確な判断」、「冷静な対応」、「その他」であった。

最後に、こうして得られた結果のうち、「保育実習 I・II で経験した内容」及び「保育実習 I・II で経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」との関係について検討を試みた。その結果は、図 12、図 13 に示すとおりである。

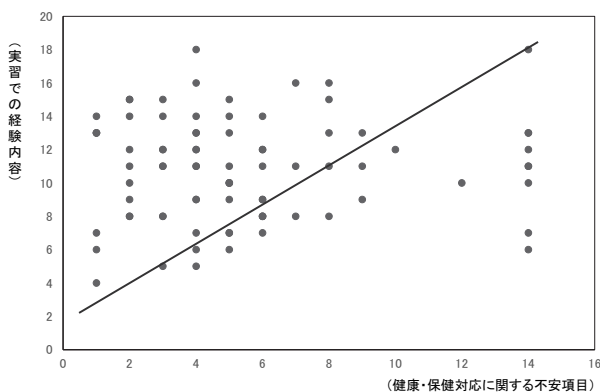


図 12 「保育実習 I・II で経験した内容」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」との関係

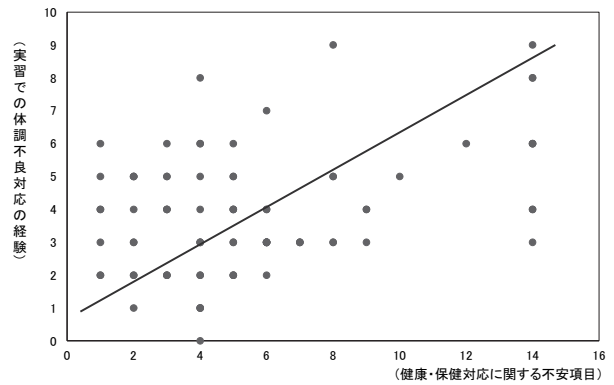


図 13 保育実習 I・II で経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」との関係

「保育実習 I・II で経験した内容」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」との関係は、相関係数 $r = 0.15$ であり、相関は認められなかった。一方、保育実習 I・II で経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」の関係は、相関係数 $r = 0.40$ であり、弱い正の相関が認められた。

4 考 察

(1) 健康・保健対応に関する不安の有無

本研究は、保育者を志す短大生のうち、保育実習を前にした 1 年次保育学生、入職前の 2 年次保育学生それぞれが、子どもの健康・保健への対応に関して抱いている不安の有無やその内容を明らかにすることを目的としてきた。

冒頭で述べた杉野ら(2020)の調査では、4 年次在籍の保育学生を対象としたもので、対象者数も 28 名と少なく、本調査と単純に比較するものではないが、子どもの保健等について不安があると回答しているのは、96%である。本調査 2 年次保育学生とほぼ同様の結果(94%)を示しており、実習を終えた多くの学生が子どもの健康・保健対応に不安を抱いていると言える。ただし、本調査における 1 年次保育学生の結果は、84%と前者に比べ、若干低い結果となっている。実習前で保育の現場をほとんど経験していない 1 年次保育学

生にとっては、まだ実感を伴った不安がないことが、この結果に影響しているものと考えられる。つまり、2年次保育学生は、保育実習において、健康・保健対応を目の当たりにしてきたり、実際に経験したりすることでその難しさや不安を実感してきている。そのことが、不安を大きくさせているのではないかと考えられる。

1年次保育学生と2年次保育学生の不安の質の違いを踏まえた対応、指導をしていくことが望まれる。特に、不安を抱いている2年次保育学生については、保育実習後のケア、例えば、学生の実習の振り返りをもとにした支援を進めることも指導改善の一つとして考えられる。

(2) 健康・保健対応に関する不安の内容

健康・保健対応に関する不安の内容について、1年次及び2年次保育学生の結果を比較すると、大きな違いが見られる。全体として2年次保育学生の回答率が高く、ほとんどの項目について1年次保育学生よりも不安を抱く学生が多く見られる。この結果も、保育実習の経験の有無や講義・演習の経験差が影響しているものと思われる。片岡(2021)は、同様の調査から、就労に対する不安、とりわけ「職務能力への不安」が学年の上昇とともに高くなると述べている。不安の内容についての詳細な分析と、不安軽減のための有効な手立てを検討することが今後の課題の一つと言える。

1年次及び2年次保育学生の健康・保健対応に関する不安の内容について、1年次保育学生の回答率が2年次保育学生を唯一上回っていたのが、「(13)子どもへの接し方」であった。自由記述に「どのように接すればいいのか分からない」「子どもへの接し方が適切にできるか」といった内容が見られるように、子どもに実際にかかわった経験がないことに起因する不安であり、保育実習を経験していない1年次保育学生ならではの不安と言ってもよいだろう。

一方、2年次保育学生が高い回答率を示しているのは、「(12)保護者への支援」の項目であった。1年次保育学生が、まず「子どもへの対応」を挙げているのに対し、2年次保育学生にとっては、子どもの背後にいる保護者にどう対応するのかという不安が大きいと言える。保育実習では、直接保護者とのかかわる経験をしている学生は、13名と決して多くはない。自由記述の内容も「コミュニケーション・話し方(言葉遣い、敬語)・受け答え」、「寄り添い・支援の具体」、「未経験」、「信頼関係」等8つのカテゴリーが挙げられ、多岐にわたる不安を持っていると言える。また、自分よりも年齢が上で、経験も豊かな保護者とのやり取りは、知識というよりも経験の積み重ねが不安の解消に有効であると考えられる。そこで、先に述べたように、実習前後に「保護者支援」の事例検討やロールプレイ等を含む指導を取り入れていくことが、大学における指導改善の一つの方向となるのではないか。例えば、調査対象とした2年次保育学生には、前期科目の「健康(指導法)」において、保護者対応の事例紹介をしているが、そこにロールプレイを加え、適切な対応を検討・疑似体験するといった改善策が考えられる。太田(2020)は、新任職員も保育系短大生も保育における困難さを感じる内容として「保護者に関すること」を挙げる比率が高いことに言及しているが、入職後不安の程度が低下する傾向にあることも述べている。よって、在学中に提言する手立てを講じることは、必要であるが、入職後の状況についても着目していく必要があると考えられる。

次に、いずれの学年も回答率が高い内容として、「(1)けがなどの応急対応」が挙げられる。ただし、不安の内容のカテゴリーを見ると、「冷静な対応」、「迅速な対応」、「未経験」の3つは共通しているものの、異なる特徴が見られる。つまり、多くの1年次保育学生は、「正しい対応の理解」を挙げている。「けが

などの応急対応」について、知識として十分でないことが自覚され、不安となっているのであろう。しかし、2年次保育学生は、「応急処置の具体的理解」や「的確な判断」を挙げており、より具体的な場面を想定した不安を抱えていることが察せられる。矢野ら(2021)は、実習前の学生が抱えているのは、漠然とした不安や保育技術の不安がほとんどであり、実習中になると、不安はより具体的な内容となると述べている。また、前出の杉野ら(2020)、小屋(2010)も、応急手当に関する知識と実践力を身に付けることは、保育学生にとっても重要な内容であることに言及している。よって、特に2年次保育学生には、より具体的な応急処置の場面を想定した指導が重要であると考えられる。

また、杉野らの調査結果と「(1)けがなどの応急対応」の自由記述のカテゴリーを比較すると、「冷静な対応」、「適切な処置」、「医療機関受診の診断」の3つは、共通するカテゴリーであった。カテゴリーの種類や記述量、そもそも調査対象者数そのものが大きく異なるため、単純な比較はできないが、上記3つが不安の要素となっていると考えられる。したがって、これら不安の具体的な内容を踏まえた指導をすることが、学生の不安軽減の一助になると思われる。学生が具体的な場面を意識し、切実感を持って学ぶべき内容として、カリキュラムを構想していくべきであろう。そして、このことが、保育学生が保育者として現場に立った時、子どもへの適切な対応、援助の充実へと結び付くものとなると思われる。

(3) 健康・保健対応に関する不安と保育実習における経験との関連

「保育実習Ⅰ・Ⅱで経験した内容」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」には、相関は認められなかった。つまり、保育実習における経験は、健康・保健対応に関する不安には影響しないということが明らかになった。

一方、保育実習Ⅰ・Ⅱで経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」の関係は、弱い正の相関が認められた。つまり、保育実習において、園児の体調不良への対応を多く経験している学生は、子どもの健康・保健対応に関する不安も多く抱いているという傾向が見られた。なお、体調不良の対応経験が少なくても不安の内容を多く回答している学生も中には見られた。それらの学生の自由記述の内容を見てみると「保護者の方の代わりに大事な子どもの命を預かっているからすごく責任を感じる」と記されていた。実習において体調不良への経験は多くはなくても、子どもの命を預かる責任への重さが回答結果につながっており、全てが数量で測ることができるわけではないことを物語っている。ただ全体として、様々な経験をすればするほど、果たして一人で対応できるかという不安が大きくなることも想像に難しくない。また、体調不良のうち、「鼻水」「擦り傷などのけが」といった比較的軽微なものの対応を経験している学生が多い中で、「けいれん」や「骨折等」「誤飲」といった緊急性を伴う重大な症状・事態への対応を経験している学生も見られる。重大な事態への対応を経験することは、大きな不安につながるのではないかと推察される。そこで、今回調査をもとに、実習でどんな体調不良に対応しているかを、その対応方法を含めて、事前に指導を行うことができれば、学生は実感を持って学ぶことができ、不安の軽減にもつながると思われる。

鳥海・味田(2019)は、保育者養成課程の学生を対象として、「子どもの保健」で学びたい内容を調査・報告している。学生の求めや必要感に応じつつ、身に付けるべき健康や保健対応の知識・技能を確実に習得させるようなカリキュラムの改善(前林, 2017)が、不安感を払拭し、自信を持って子どもに対する保育者を養成することにつながるものと考えられる。

沼野(2011)は、保育現場において、看護専門職等の保健担当者の有無に関わらず、日常的に体調不良時の看護、ケガ等の手当て、与薬等の対応が求められ、苦慮している現状を報告している。保健対応の不安は、決して保育学生だけの問題ではない。子どもの健康問題や保健対応は、今後ますます複雑化、多様化していくことが予想される。したがって、保育者養成機関では、これまで以上に子どもの健康・保健対応に関するカリキュラムの在り方や具体的な指導改善が求められると言っている。そして、このことは、保育現場の子どもの援助の充実、子ども自らが健康な生活を創っていくための礎になるものとする。

5 総合考察(まとめ)

本調査では、以下のことが明らかになった。

- (1) 保育系短大生のほとんどが、子どもの健康・保健対応に関する不安を抱いており、保育実習経験している2年次学生の方が、1年次保育学生よりも多くの不安を抱えている。
- (2) 保育系短大生が抱く子どもの健康・保健対応に関する不安の内容について、「けがなどの応急対応」は、いずれの学年でも回答が多く見られたが、1年次保育学生では、「子どもへの接し方」についての不安が、2年次保育学生では、「保護者への支援」が特徴的な不安とみなされる。
- (3) 2年次保育学生が抱えている「けがなどの応急対応」の不安は、「応急処置の具体的な理解」をはじめ、より具体的な場面を想定したものであり、1年次保育学生の不安とは質的に異なる。
- (4) 保育実習において経験した園児の体調不良と子どもの健康・保健対応に関する不安の内容には、弱い正の相関が見られることから、保育実習において体調不良に関わる経験を多くすることは、健康・保健対応に関する不安を大きくすることにつながる

と考えられる。

- (5) これまでに述べた結果・考察より、以下4点の指導改善・カリキュラム編成を提案したい。

- ① 不安の具体的な内容を踏まえた、より切実感を持った学びを創る等の指導改善を図ること
- ② 実習での体調不良への対応経験を把握し、その対応方法を含めて、事前・事後指導等を行うこと
- ③ 「けがの応急対応」については、知識とともに実践力を身に付けるため、特に2年次保育学生には、より具体的な応急処置の場面を想定した指導を実現すること
- ④ 「保護者への支援」については、事前・事後実習指導等において、事例検討やロールプレイなど取り入れる等のカリキュラム改善を進めること

今後は、どのような指導改善やカリキュラム編成が保育学生の持つ子どもの健康・保健対応に関する不安の軽減・解消につながるかを検証していく必要がある。また、本稿では、子どもの援助の充実や子ども自らが健康な生活を創り出していくことにつながる知見を見出すには至っていない。今後は、保育学生の不安の軽減や解消がこれらにどのように寄与していくか、引き続き研究していきたい。

6 引用・参考文献

- 1) 西村潤子・山川正信(2021), 「保育園における感染予防対策に関して看護職と保育士が抱える課題 -アンケート自由記述のテキスト分析から-」, 日本社会福祉マネジメント学会誌第1巻第2号, pp17-28
- 2) 厚生労働省(2018): 「保育所保育指針解説編」, フレーベル館
- 3) 沼野みえ子(2011): 「子供の保健に関して保育者に求められること -新潟市内保育所・幼稚園の実態調査から-」, 新潟人間

生活学会 人間生活学研究 (2), pp23-33

- 4) 前田はる香(2018) : 「保育実習において学生が対応に困った経験 : 子どもの保健に関連した内容について」, 千葉敬愛短期大学紀要第 40 号, pp.327-332
- 5) 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博(2020) : 「保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2020.Vol.29 No.1, pp73-80
- 6) 小屋美香(2010) : 「保育実習中の学生の乳児保育体験に関する研究」, 育英短期大学研究紀要第 27 号, pp33-44
- 7) 小川真由子・杉山佳菜子・榊原尉津子(2018) : 「保育実習の振り返りと自己評価(1)ー実習経験からみた『こどもの保健 I・II』『こどもの保健演習』の授業内容と教授方法の検討ー」, 鈴鹿大学・鈴鹿大学短期大学部紀要人文科学・社会科学編 第 1 号, pp159-170
- 8) 片岡祥(2021) : 「保育職を目指す学生が抱える就労に対する不安の時間的変容」, 滋賀文教短期大学紀要第 23 号, pp35-40
- 9) 太田裕子(2021) : 「保育における保護者との関わりについての意識に関する調査研究ー保育施設新任職員と保育者養成課程の短大生を対象としてー」, 羽陽学園短期大学紀要第 11 巻第 3 号, pp1-15
- 10) 矢野洋子・安東綾子(2021) : 「学生の保育実習への不安に関する検討(1)ー保育実習を通してどのように変化するのかー」, 九州女子大学紀要第 58 巻, pp75-85
- 11) 鳥海弘子・味田徳子(2019) : 「保育者養成校の学生における感染症対策の現状から」, 秋草学園短期大学紀要 36 号, pp117-128
- 12) 前林英貴(2017) : 「保育者を目指す学生の医療的ケアと障害者に関する意識調査ー科目「子どもの保健」の学びからー」, 島根県立大学短期大学部人間と文化第 1 号, pp.137-144